

自分の価値認め「自信持て」



組織・人事コンサルタント

伊賀 泰代さん(55)

＝1982年卒



＝内藤絵美撮影

姫路西高校

兵庫県姫路市

年1回発行「白城会通信」

姫路西高校の同窓会「白城会」は、地域や職域ごとに7支部ある。東京▽京都▽大阪▽神戸▽東播（兵庫県加古川市など）と、兵庫県庁と姫路市役所に勤務する卒業生で構成する▽県庁白城会▽市役所白城会だ。

現役生が高校で安心して勉学に励めるよう、卒業生たちの寄付金による返還不要の「白城会奨学金」の制度が続いている。寄付金は続々と寄せられ、余剰

金は基金として積み立てられている。

会報「白城会通信」（年1回、2万5000部発行）には各学年による「回生だより」が満載だ。昨年10月の発行では旧制姫路中学時代の「姫中55回生」が「全員90才以上になりました」と報告。他にも「次の同窓

会は5年後の1月2日に「2022年の年始に」と着々と同窓会の案内が告知され、堅い絆がうかがえる。



年1回発行されている白城会通信

わたしの母校

■世界が広がる

「海外から来校したデニス・デーヴィー先生との出会いは大きかった。今こそ世界文化遺産・姫路城の周辺をはじめ、姫路で外国人を見かけることも珍しくなくなった。当時外国人と英語で話す機会なんてなかった。入学当初はパドミントン部に所属していたが次第に友人たちも放

だなあ

海外から来校したデニス・デーヴィー先生との出会いは大きかった。今こそ世界文化遺産・姫路城の周辺をはじめ、姫路で外国人を見かけることも珍しくなくなった。当時外国人と英語で話す機会なんてなかった。入学当初はパドミントン部に所属していたが次第に友人たちも放課後にデニス先生と話すようになった。EBS部で英会話に親しんだ。大学や社会に出ると優秀な人たちであふれている。生徒たちがいつか自信喪失をする時を見越したように、西高の先生たちは「自分たちには価値があるんだ、何だってできるんだ、自信を持って」というメッセージを常にくれた。勢に行かなくても、金を掛けなくても、授業にいれば難関大学に合格できる、というのが先生たちのスタンスだった。

■結束強い同窓会
西高は回生ごとの同窓会が盛んだ。多くの回生が5年おきに同窓会を開いている。毎年開催だと個々に変化が少なく、10年だと「久しぶり、元気だった？」で会話が終わってしまった。

「有利、地方は不利」といったことを耳にするが、それは違うと思う。東京は確かに何でもそろっている。でも、そこで完結して、視野に広がりがなくなるように感じる。地方を「原点」に視野を広げていけば、違った物の見方や、新たな価値を発見することができる。世界へ羽ばたけ」と自信を持たせてくれた母校。自身もまた、広い視点で企業や人々に新たなヒントを与えている。



火 ぶるやと

水 カルチャ

木 ちよい旅

金 見・聞・楽

土 学ぶ・育つ・挑む